



淀長立見席 13

映画話術の見事な 新作二本

淀川 長治

△映画評論家△

夫は会社から妻に突如電話。ベルの鳴るのが聞える。夫はわざと無言。受話器とった妻。相手もたしかめないで「あたし、いま、ベッドの上に、一人で……ホホホ

ッ。夫は電話をガチャンと切った。どうも妻には他に男がいる。とにかく彼女、毎日きまって外出、夕方あわてて帰宅。あやしい。そこでついに私立探偵を尾行させた。

この映画、「第三の男」キャロル・リード監督の一九七二年作。私はアメリカでこれを見てこれは日本で受けるぞとニヤリ。題名は「フォロー・ミー」（ついてらっしゃい私に）しかしアメリカの三十何階かのニューヨークのその会社で私一人この出来上ったばかりの映画を試写してもらって見たときの題名は「パブリック・アイ」（世間の目）。これでは固すぎるのか題名変更。あちらでも出来上ってから題名を変えることがあるらしい。

レストランの女給仕がロンドンの上流家庭の息子に愛され結婚。ところが家風がいかに古く古くさくって。それで新妻毎日外出。探偵がつける。ところがそれがまるで女子高校生そっくり。公園、映画館、美術館、植物園。探偵すっかり感激。この探偵がまたズックの鞆を肩から下げ、そのなかからビスケット掴み出しポリポリの童心そのもの。つける者つけられる者、いつしか毎日のことでアラ、ヤア、で親友みたい。春の花、春の風、池のほとり。ビーター・パンの銅像。ついに探偵すっかり彼女に惚れこんだものの、やっぱり彼女は夫を愛していることはまちがいない。そこで夫に戻すまでの劇作家ビーター・シェファール一幕喜劇の映画化。ところが監督が「第三の



・現代の人間の孤独とあせり、恐怖感を描き出した「激突」のデニス・ウィーバー



・「フォロー・ミー」（ついてらっしゃい私に）のミア・ファローとトボル

男」のキャロル・リード。主演が「ジョンとメリー」のミア・ファローそして「屋根の上のバイオリン弾き」のトボル。このトボルの探偵ぶりが涙が出るくらい可愛く面白く、夫に扮するマイケル・ジュイストンは「ニコライとアレキサンドラ」のニコライ皇帝。これがヒゲをとるとイギリスの上流息子そのものになっちゃうから俳優は面白い。音楽がジョン・バリーでカメラが「素晴らしきヒコキ野郎」のクリストファ・チャリス。名人がこれだけ揃うと、この単純コメディまるで名人話し家の語りの妙をあふらせる。

「激突ノ」原名は「決闘」。これはこわい。カリフォルニアを北から南へ商用で走る一台。その静かな一本道。山のみどりが美しい。すると目前に一台。大型灰色トラ

ック。煙を吐いて感じが悪い。商用の男。なんとなくスリットと追いこした。すると大型トラック。またも追いついて追いこす。商人くさって、追いこす。するとまた追いかす。追っかけっこは止めようぜ。商人急スピードでスリットと追いこした。ところがぐんぐんトラックが追っかけてきた。追っかけて、うしろからゴツンと突く。さらにそのトラックが追いついて前をデグザグ運転。商人アタマにきた。この野郎ノところが相手をいっす追いやるうと、とある道わきのレストランに立ちよったところ、あの灰色のトラック戻ってきた。レストランの向うに止まっている。馬鹿者。止め給え。向うに怒鳴って、商人また走る。トラック、再び追って追い抜く。スピードを出す。とトラックもスピード増した。別の道を走り本道に。するとその本道真正面にトラック。追っかけっこ思ったそれが次第に恐怖に。恐怖は殺気に。相手はなぜこうも追うのか。ついに道はたを曲って急停車。そこは西部の毒蛇屋の妙な商売している老女の家。そこで電話をかりて警察へ電話。するとその電話ボックスめがけトラック突進。とび出してころんだ商人。電話ボックス目茶苦茶にこわれ蛇屋の婆さんになりたてる、その老女までもひき殺そうとした。逃げる老女、蛇のガラス窓ぶっこわれ蛇が這い出し老女は泣き声。ここから商人の赤い車を追うトラック。必死逃亡の商人の車。商人はハンドル握りしめ、神さまノ！と思わず祈る。トラックはついに商人の車に体当りの恐怖のクライマックス。監督はステイヴン・スピルバーグ。主演はデニス・ウィーバー。ともにテレビの二人。映画もテレビ用映画。しかしここには現代の人間の孤独とあせりと、わけのわからぬ恐怖感。なぜ自分にかくもひっかかってくるのか、その相手の病的変質的感覚。これはしかも映画がトラックの男を一度も画面に見せなかったことで恐怖が病的のこわさを盛り上げる。話し方の実に巧い映画。初めは鼻唄まじり、それがラストで必死の形相の、この殆んど他に車を見ないハイウェイのアメリカ山道のこわさ。

女体百景

《7》

H・ジュニア

え・浅野 俊一

ナメナメ女

彼女の瞳は、お酒を飲みもしないのに、いつも酔ったように、遠くを見つめています。

歩く姿も、千鳥足、なんとも危なかしくて、そつと後から支えたくなるほど小柄で骨細、たればトランクに入られそうです。

上唇は、窓ガラスに、ビチャツと押しあてられた吸盤のよう。

皮膚は、生白く、少し鳥肌、赤い毛穴が浮いて見えます。

顔は一見、利口そうですが、体全体は、やがて、ナメナメする性器そのものに見えて来ます。こんな体相の女を皆さまはご存知でしょうか？

今だから告白しますが、実は、サイゴンで、私と結婚したマリアンヌは、そんな体相の女でした。

彼女は、生粋のパリジャンヌで、東洋美術の研究にサイゴンに来ているソルボンヌの大学院生だったのです。

〈メイド求む〉 但し、フランス語を話せるインテリ女性。当方、H・ジュニア、作家、独身、サイゴンホテル19号室

ある出版社の仕事で、数カ月サイゴンに滞在することになった私は、新聞広告で、彼女を会話の教師兼メイドとして雇いましたが、ついついベッドでの会話の特訓に熱が入りすぎ、フランス人神父の手で、結婚式を挙げさせられてしまったのです。

日本人の友人が、私を毎朝誘いに来るのですが、彼女は、私の首に手を廻し、情熱的に私の口にしゃぶりつきなかなか離れません。友人たちは

「日本の細君にいいつけるぞ！」

と、私をおどしますが、彼女には幸い日本語が通じません。

夕食は、夜のために、濃厚なフランス料理を、時間をかけてこつてり食べさせられるのです。

食事がすむと、私は、彼女と並んで全裸でベッドの端に腰かけ、彼女が次から次へとギターで弾き語る自作のフォークに聞き入るのでした。

小舟が濁ったメコン河を流されて行く

舟頭は一生きんめい舵をとるが

河の流れには勝てはしない

それはベトナムの悲しい運命なのか？

小雨がまた降ってきた

乙女はうつろに水面を眺め

その目には涙が一杯だ

彼女の全身には、淡くソバカスが散っていました。彼女は何かに憧れたように遠くを見つめて歌い続けます。



そして、いつとはなしに、二人は、前戯へと移行してゆくのでした。ここで、全身くまなく吸い合うフレンチキスの真髄が始まるのです。途中、小さいタオルで汗と愛液を幾度かふきとらねばなりません。

前戯、本番、後戯、そして、また前戯……と、体力の限りを尽すのでした。

昼寝のときにさえ、彼女は、私を求めてくるのです。万事休す！

不注意にも、彼女はとうとう妊娠してしまいました。しかし神は、私を見捨てませんでした。

「今月末、タイ国へ移動せよ！」

東京の出版社から電報が届きました。私は自動車のトランクにそっと身の廻りの荷物を積み込みました。

「早く帰ってきてね！ 私、あなたの子供を産みたいの」

国境まで見送りに来た彼女は、涙を流してそういいました。

「すぐ帰ってくるよ！」

手を振り続けるマリアンヌの小さな体が、バックミラーにいつまでも映っています。

「アデューー マリアンヌ！ 永遠にさようなら！」

彼女は、ひょっとして双子でも産むのでは？

しかし、車は、とうとう国境を越えました。もう、ここはタイ国です。

明日は、どうなと、知らんタイ！

ぴっと・いん



★愛のサロン・本高砂屋

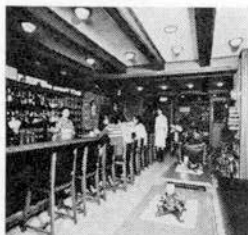
「ジョリカ」誕生

国道2号線浜側、御影公會堂前のメゾン新御影1Fにオープンしたグッとシツクなサロン「ジョリカ」。

オーストリア風の室内、ステンドグラスの小窓から注がれる鈍い光に身をゆだねながら、くつろいだ一時を過ごすのにも最適。

ティー&グリルタイム

〈AM11:00~PM6:00〉には、えびグラタン(600円)、サーモンイタリヤ風(700円)、チキン白ブドウ酒オーストリア風(800円)、コーヒール・紅茶(200円)他、個性的な料理、メニューがいっぱ



シックなサロン「ジョリカ」

い。また、6時~12時はワイン&スナックタイムで、高級洋酒各種、ヨーロッパの名酒が揃っており、オードブルのほか9時以降は雑炊もある。

ちよつぱり贅沢な愛のサロン「ジョリカ」にあなたも一度いらしてみては。

TEL・841・3591

★山小屋風のムードで

「千」新店お目見得

昨年暮れ、スタンドバー「千」が、生田新道サンライズビル一階(電話三九一一〇七七)にオープンして人気をあつめている。

ブラウンで統一されたカウンター、ソファ、テーブル、椅子と、あったかい山小屋風の落ちついたムードのインテリア。

ママの千葉和子さんは、ムーンライトで八年、千を開いて三年というキャリアが生きている気さくな店。女の子五人も可愛い人が多く、神戸らしい。



新装オープンした「千」

★スペイン料理の

「天使の楽園」がオープン

「盗賊の館」かわら乞食などユニークな店づくりを続ける中浜志朗さんと「六甲クラブ」「ジュシカ・スタンハイム」「ダナ・ガールデン」などでエキゾチックな店づくりを行なう中野武士さんが、手を結んで頭文字をとり「エヌ・エヌ興業」と命名して新会社を設立した。手はじめに本山の「ファミリアフェーマーシイ」が、「天使の楽園」と改名されて、再び一月十五日にオープン。

外国の家の庭のような雰囲気、玉ねぎや、ぶどうがいっぱい飾られた、楽園に遊ぶような楽しいスペイン料理店として登場。

料理はチキンパイやフラメンカエッグなどで、ドイツや友達同志の遊び場として最適。昼間はティールームとなっている。

●神戸うまいもん とドリンキング

★京風御食事処

杉

神戸元町三丁目本通り浜側本高砂屋2F
TEL・331・7368

元町の本高砂屋の2Fで京の味が思う存分楽しめる。海の幸・山の幸を集めたお食事処で、かすりの着物姿の女の子たちの親切な応待がとても気持ちがいいのです。

海の幸・汐くみ 70



0円、山の幸・杉 600円、季節御飯500円おにぎり、茶めし3550円、お茶漬3000円など京の香りのするせんさいなお料理。店内は、テーブル、お座敷、カウンターがあり、ところどころに未生流の生け花が置かれている。日本情緒にふけたい方には、ぜひおすすめしたいお店なのです。



酒 肆
Nouvelle

ヌ ベ ー ル

神戸市生田区北長狭通 2 丁目 14

Phone 331 - 9 0 0 5

天若シ酒ヲ愛セ不ンバ
酒星天ニ在ラ不。
地若シ酒ヲ愛セ不ンバ
地ニ應ニ酒泉無カルベシ。
天地既ニ酒ヲ愛ス
酒ヲ愛スルハ天ニ愧ヂズ。

(李太白詩鈔
月下獨酌より)

カクテルラウンジ

SAVOY
サヴォイ

ホームパーティでのカクテルの
作り方を電話でお教え致します。
お気軽にどうぞ

TEL 331-2615

高架山側 テキの店北

潜り戸を通して
“花,,のおふくろさんの味を



和風季節料理



さんプラザ地階 TEL 331-0087

営業時間 AM11:00~PM9:00



Syphon Coffee Pizza
and drinks with wood cup
on the pat. No. 47-046665
steering weel table.

オールドキー ￥3,800

ピザパイ ￥350

ビール(小) ￥200

サイフォンコーヒー ￥190

毎週水曜日生バンド演奏<ザ・ハプリーズ>

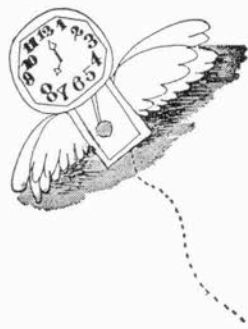
HAPURI

神戸市灘区日尾町2丁目5

(くみあいマーケット山側)

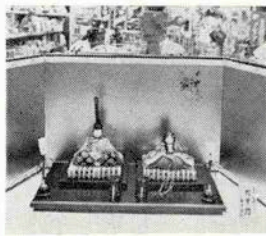
TEL (078)851-8787

神戸百貨店 だより



★いち早く出揃った カメヤの雛人形

雛祭を来月にひかえて、おもちゃのカメヤには段々、立雛が豊富に揃っています。カメヤ特製の市松人形、従来通りの伝統的な雛人形の他に、この二、三年大いに人気のあるきめ込みの真多呂人形はカメヤの推し商品。きめ込み人形なので品いたみも少なく手入



カメヤの真多呂ひな人形

れも簡単とあって、若いパパ、ママにはぜひおすすしたいとのこと。お値段は、三〇、〇〇円前後のもの、が手ごろで、四、五、〇〇円くらいからの立雛も素敵、

豪華な段雛、かわいいケイス入りの立雛、段雛をあなたの愛するお嬢さんのた

★新春、新作御婚礼衣裳 展示会開かれる

めに選んであげてください
春の結婚ラッシュを目前にして、一月十五日成人の日に大丸前つるや衣裳店が婚礼衣裳展示会を開催しました。オリエンタルホテル2F大ホールと梅の間に展示された作品一五〇点に雨の日にもかかわらずこれらのお客さんの目は注がれその美しさに嘆息、和装、洋装どちらにしようかと迷う嫁ぐ日近いお嬢さん連れ商品がほとんど、次々と予約打掛・白無垢小物一式付三〇、〇〇〇円、二〇〇、〇〇〇円、留袖・袋帯小物一式付八、〇〇〇円から、ウェディングドレスは二〇、〇〇〇円からと華い会場。つるや衣裳店の話では、打掛は一〇〇、〇〇〇円、ウエディングドレスは二〇、〇〇〇円、式前日から三日間借りられるそうです。なお、二月十一日にはオリエンタルホテルで展示会があるそうです。

また、同日、センター街の中川衣裳店がニューボートホテル3F展示会場で、

★スタンスチェア入荷 大丸前の欧風家具で知られる永田良介商店に、とてもモダンなスタンスチェアが入荷されました。スウェーデンのヤン・ドラング氏とヨハン・ハルト氏のデザインで、夏はクッションを取ってガーデンチェアに、冬は自由に使って、黄

橙、青、緑、茶と色もカラフル。組み合わせが楽しくてもごきげんな若者の椅子なのです。一脚一、〇〇〇円、二脚一、六、五〇〇円。水洗いのできるジーンズクッションのスタンスチェアをあなたも一度見にいらしてみたら。その他、十三個も引出しのある小物整理ダンスや、スペイン製のスズ人形、新しい仲間モペットのかわいい商品が揃っています。また、春向きブリット柄、ストライプのスタンスチェアも入荷されており、見ていただけでも楽しくなっています。



永田良介商店のスタンスチェア

●ショップトビックス

★元町・トアロード 舶来雑貨の店サノヘが3月22日、23日の両日サノヘキャピタルショーを催します。パリから持ち帰った秋から冬のファッションを心ゆくまで見ていただきたいとのこと。会場はニューポートホテルの2Fです。
★世界の総合宝玉石店として屈指の八十周年を迎えたミキモトパールが、去年十二月一日をもって株式会社ミキモトに改名しました。御木本真珠店と御木本真珠会社が合併し、生産と輸出、小売業務が一体化されることになりました。

★元町・衣生活品のニッケショールームの定休日が一部変更になりました。外商課、経理課が、日曜日、祝祭日が定休日となり、営業部は水曜日で従来通りです。どうぞよろしくのことです。
★キャンディ・チョコレート・ゴインチャロフ製菓がバレンタインデーにもっと楽しいプレゼント。期間中に商品お買上げのお客さんに田中佐和さんの夢占いカードがプレゼント。スウィートなプレゼントで、素敵な夢占い。

★バレンタインデーの素敵なプレゼントをもう一つ。お菓子の風月堂ではバレンタインデー用のマロングラッセ、コウベピア、ゴフルの詰合せや、かわいいケーキが用意されています。ぜひ、ご利用なさってください。
★三宮センター街の呉服のちんがら屋で一月十六日、二十一日まで春の珍聴会が催されました。中振袖、留袖、式服用コート、袋帯、など多くの着物、細やかな作品が出揃い、新春の香りをサロンいっぱいに漂わせていました。

★大丸前の呉服のみよしが、一月二十一日、二十三日の三日間、明治生命ビル12Fで染織品決算大処分会を催しました。高級商品が、驚くほど安価で手に入るとあって会場は多くの人で押しかけ、とても好評でした。

ポケットジャーナル



★73神戸まつり五月十九・二十日

第三回神戸まつりの開催日が決定した。五月十九日(土)二十日(日)の両日。

さわやかな緑の風の吹く頃のカーニバル。誰もが参加し楽しめるおまつりは、早くも年中行事の一つとして市民の間に広く浸透しているこの神戸まつり、今年もエキサイティングな二日間になることだろう。



フラワーロードを湧かしたカーニバル

★ハブニングなVTR公開
若者達の活動が目立つ最近だが、十二月二十三日、

京町筋のナショナルシヨールームに於て、VTRカルチュアリーの初公開が行なわれた。元ゼロの会のメンバーの橋本清孝さん、白井重紀さん(神戸市須磨区須磨本町二の五四〇)、杉岡裕次さんの三人が、キャンバスと画面を同一視して、画面に描いた観念芸術。

作品は一人二本位で、一本の上演時間が三十分程度二時から五時まで、バリエーションとか時間超越、対比などをテーマにした作品が公開され、新鮮な着眼が見る者に非常な興味を誘っていた。バリエーションという作品などは、キャンバスを描くが如く、事物が半分になっていき、ハツと驚く面白さ。今後の活躍が期待される。

★小山保氏、写真展「アフガニスタン」を開催
一月六日から十日までの五日間、さんちかギャラリーで小山保氏が写真展を開催

した。
神戸山岳会に所属する友人の岡春海、谷口忠男、立岡栄さん達とシルクロード冒険旅行に出発したのは四十六年四月。「遊び」で計画した旅行だったが、五ヵ月にわたるこの旅の成果は大きく、今回の発表もまともをつけるために焦点をアフガニスタンに絞ったとのこと。作品は総数四十八点。

小山氏はアフガニスタン、イラン、パキスタンにはさまれているがら東西の文化の恩恵をまったくといってもいい程受けていない風俗や国土、砂漠に生えた雑草のように自然に、しかし不気味に生きる人々、と



小山保「アフガニスタン」より

いうようにそのカメラライアントと見え、見せてくれている。

この作品展はこれまで、東京などでも開催されたが地元神戸での発表で一応終える予定とか。各方面から

誕生日
ありがとう
運動



福祉のなかみ

一九七三年、福祉の年。一ヵ月たちました。暗いニュースはあとをたちません。施設があれば、と声もその都度きかれます。政治家は、お金を出し、施設を増やすといっています。ところが現在施設によっては在籍者が定員に満たないところが少なくない、重症児施設など、希望者は列をつくり入れ、というところが多いのです。職員が足りないのです。

重い障害をもった子供たちの命を守り、その育ちの手助けをするために、深い専門知識と暖かい愛情をもった人が多く必要です。そしてその人は特別な奇特な人ではなくて、私たちの兄弟、姉妹であり近所の人たちが専門家となって働いているのではないでしょう。か。専門家として、又街にあっててゆくのは、あなたであり私です。決して行政だけで行なってゆけるものではない、と思います。あなたには何ができるか、考えてみませんか。

★誕生日ありがとう運動とは

誕生日のお祝いの中から意識的に百円節約し献金する。各家庭で、この問題について話し合う機会をもつ。このことを手がかりとして、わたしたちすべてが精神薄弱児(わ)をあたたかく包む雰囲気を広げると同時に、ひとりひとりのかけがえのない生命について思いをめぐらせ、年に一度の誕生日を有意義にしよう、という運動です。

誕生日ありがとう運動本部
神戸市其合区御幸通八の九の一神戸国際会館一階(郵便局の前)
(二五一)八一六一内線316

も反響が寄せられなかなかの成果を収めていた。また、昨年は「遊牧民の村」「褐色の印象」「熱砂」などと題してトルコ、パキスタン、アフガニスタン等の誌上発表もされた。

作品展にあたり、旅行中の印象をまとめた旅行記「シルクロード」も発行されたが、五〇〇部限定で市販されていないのが残念。

★ラジオ関西社長の青木啓さん「私の人間学」出版
ラジオ関西社長であり、



青木 啓さん

人間学研究会の代表理事である青木啓さん(五九)がこのほど「私の人間学」という著書を用島書店から出版。

内容は前半が「ひとりの人間の物語」、後半が「雑文、私の人間学」と二部にわかれており、前半では著者の幼年時代から現在に至るまでの五七年間の記録が自伝的回想風に描かれており後半では著者の生活を通して眺めた人生観、人間観が随想ふうにとめられている。

著者は七年前「ラジオに

よる人間学講座」を始めると同時に「人間の回復」を基本テーマとして「人間学研究会」をつくり、一貫して人間とは何かを自分自身に問いつづけて考えつづけてきたこの本の底に流れるものは著者のあくなき人間への興味であり、一人の平凡な人間が通してみた人間観が随所にみられておもしろい二一三ページ。五〇〇円。

★カッコよく泳ごうノドレメスイミングスクールで新しく竣工した神戸YMCA(神戸市生田区加納町二丁目)の室内温水プールで、同じ校舎に開校した神戸ドレメスイミングスクールが、ドレメスイミングスクールが、二月から開校。

水泳でバランスのとれた美しいボディづくりに役立てるため、カッコよく泳ぐ技術を身につけたい人におすすめする。コーチは、高浜武さん(元松蔭女子学園水泳コーチ、現福富学園本部



ドレメスイミングスクール

体育指導部長)を始め、タメスイミングクラブの指導員と現役選手が当たる。日時/週一回(水)午後三時半/五時 月四回/入金金三千円/月会費四千円(水着は各自持ち)

ただし、会員は学院生が中心で、他に姉妹、友人の紹介があれば面接のうえ入会が決定する。ドレメの可愛い子ちゃんとお稽古をいっしょにやりたいという男性諸氏にもおすすめしたいもの……。

(申込みTEL二四一一八六一)

★花柳楽座師

・扇とともに55年

神戸の邦舞家として活躍されている花柳楽座師(生田区下山手通六丁目五五)が、このほど師籍五五年を機会に三月二十九日・三十日の両日神戸国際会館で「扇とともに五五年」のタイトルでゲストに長谷川一夫、林与一、朝丘雪路、花柳芳次郎、猿若清三郎を招いての記念公演を行なう。

楽座師は「武悪」を、子息の林啓二さんは、猿若清三郎と「二人三番叟」を踊る。師籍五五年のキャリアをいかに展開させるか楽しみである。

★待たれる初入港の外国観光船
今年の外国客船入港予定

美術ガイド



★兵庫県立近代美術館 竹久夢生展 3/14 2/25 休館	★南宮商店大店展 奈良・刀彫人形展 2/21 2/28 休館	★大丸百貨店五階美術画廊 広瀬忠一・手織物展 2/21 2/28 休館	★時代経緯小道具展 2/21 2/28 休館	★赤松油絵小道具展 2/21 2/28 休館	★大紅会日本画展 鈴木進・日本画展 2/21 2/28 休館	★第二回神戸女子大学写真部展 神戸新聞・デリス・スポーツ社員 2/21 2/28 休館	★西尾和子油絵作品展 光風会・福田好克個展 2/21 2/28 休館	★新人女流展・A 神戸デザイン広場 2/21 2/28 休館	★市立小学校校展 第十八回神戸二紀展 2/21 2/28 休館	★兵庫県物産展・播磨・但馬路の旅 2/21 2/28 休館	★サンチカギャラリー 青雲書道会 2/21 2/28 休館	★新世紀大展 神戸二紀展 2/21 2/28 休館	★三菱ホームコナリーギャラリー 滝谷美枝子・フラワーデザイン展 2/21 2/28 休館	★池田啓子洋画展 石上洋子・透花展 2/21 2/28 休館	★YWC・機械美術展 2/21 2/28 休館	★新光ギャラリー 古石彫展 2/21 2/28 休館	★ラフ・エロ・幼稚園園児作品展 2/21 2/28 休館	★西宮段上小学校PTAグループ展 2/21 2/28 休館	★親和女子大学美術部卒業展 2/21 2/28 休館
--	---	--	------------------------------	------------------------------	---	--	---	---	--	-------------------------------------	--	------------------------------------	---	---	-------------------------------	-------------------------------------	------------------------------------	-------------------------------------	----------------------------------

KOBE POST

★大阪フィルの指揮者朝比奈隆氏は、ワイマール国立管弦楽団他の招きによって約一カ月の予定で渡欧されました。昭和二十八年以来の欧州客演の旅はこれで二十回を迎えるそうです。

★都市計画研究室の水谷順介氏は九月十三日市民病院に入院され、(病氣は自然気胸)手術の結果、十一月十日無事退院。自宅で静養中でしたが、そろそろ仕事にかかっているようです。

★画家の吉田稔郎氏が、神戸に転居されました。新住所は神戸市垂水区神陵台九丁目一(寒風池北側) 千六五五です。

★フリーアナウンサーの小山乃里子さんが転居されました。新住所は、神戸市灘区水車新田大土ヶ平五一一大土平マンション45号(千六五七) 千七七八(八八一)〇七五四

★本誌カメラマンだった藤原保之さんが、昨年の十一月二十五日明子さんと結婚され、このほど独立フリーカメラマンとして活躍中です。新居は、神戸市東灘区御影字岸本一五四四一七マツオハウス3A 千八一一七九三八です。

★邦舞家の尾上菊見さん(須磨区須磨寺町四丁目四一六)のご母堂が昨年暮れお亡くなりになりました。ご冥福をお祈りいたします。

★海洋文化発行人の小田左一氏が、十二月二十一日儀肝硬変で逝去されました。ご冥福をお祈りいたします。なお新発行人は小田國彦氏。(神戸市生田区楠町八丁目四八)

★トロアードのハイウェイレストランKKの大東八郎氏は、この程相談役になられ娘婿の村上実さん(調理責任者)が代表取締役就任されたとの通知がありました

今年の日程決まる

兵庫県音楽団体協議会が主催する「パール・コンサート」の今年の日程が決まり、特別演奏会の出演団体も内定した。

同協議会はずぐれた音楽を小ホールでみっちり聴こうと県民小劇場を根城に小規模の音楽会を開いている。今年のパール・コンサートは一月十八日の深沢亮子(ピアノ)を皮切りに、二月十七日小林道夫(チェンバロ)、四月七日内田光子(ピアノ)、五月一日東京クワルテット、七月十九日金昌国(フルート)の五公演(会場は金昌国だけが県民会館でその他は県民小劇場)と決った。

ようと、いづれも積極的な発言で会議所の事務局をあわてさせている。

非常に結構なこと、神戸らしい夢を盛り込んだ発言は大歓迎である。

これが、思いつき発言に終らないようにどんな計画を進めてほしい。

もうひとつ言うなら、これらの計画に+αというところで、神戸の芸術アカデミーを是非とも創設してほしい、そうすればこれらの計画もすべて見事に実を結ぶと思う。

(Y)

は四十隻、戦後最低のものになるとか。二月にはヒマラヤ号、七月、十月にアルカディア、オロンセイ各号が最終寄港の予定。しかし明るい話題として三隻の初入港船がある。三月十九日、グリブスホルム号が姉妹船のロッテルダム号と共に入港。四月十三日はノルウェーのロイヤル・ヴァイキング・スターが南洋諸島、豪州を経て寄港する。かなり先になるがマリボサ号(アメリカ)は十一月十七日入港予定。二万以上の豪華客船とあれば、さぞ人気が集まることだろう。

★ユニークな美術展の二つ
失なわれゆくものの哀し

花時計



★ファッション都市神戸への道

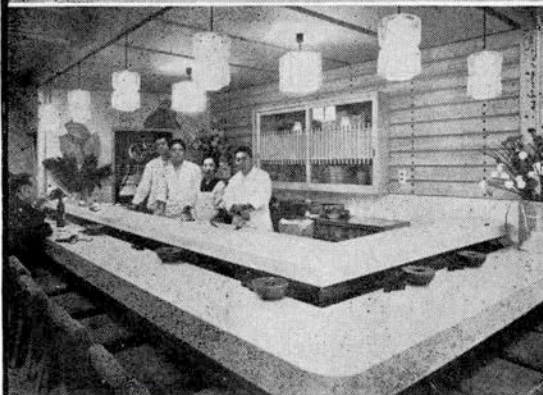
最近、神戸商工会議所を中心にファッション都市への提案がいろいろまともなれようとしている。昨年十一月末、神戸のファッション業界が結束

さ美しさを描く竹久夢二の遺作展。油絵、版画、デザイン等、手がけた分野全般にわたって展示する。作品点数三〇〇点。「長崎十二景」「室津懷古」などの代表作が並べられている。兵庫県立近代美術館で二十五日まで(月曜休館) 芦屋、滴翠美術館では、「ベルシヤ陶器の変遷展」紀元前三千年から現代に至る二一〇点が集められている。また期間中には二十日にJ・グラック氏(「ペルシヤ芸術の展望」編集長) 三月三日に吉田光邦氏(京大人文学研究所)の講演がある。会期は三月二十五日まで(月曜休館) ★パール・コンサートの

を固めK・A・F(Kobe Fashion Association)を発足させたばかりである。年頭、はやばやと砂野仁商工会議所会頭や、玉井副会頭、竹馬副会頭もファッション都市、神戸を目指して発言が賑やかである。

21世紀博、これには、世界のファッション・ショーを、神戸国際会館で増築を計画している玉井副会頭は、この建物をファッション・センターにと、竹馬副会頭は、世界のデザインナーを神戸に集め

ゆったりと落ち着いたスペースで
新しい“味”をご賞味ください。



又平 鮎

神戸三宮生田ノ社ノ西
電話・三の宮 (331) 0935



おいしさが
口いっぱい
ひろがる……

本場の味



ばた
なち

- 三宮センター街柳筋店
TEL 321-3446・331-0572
- 新開地店
TEL 576-1191
- 平野店（平野市場内）
TEL 361-0821
- 三宮センター街サンブラザビルB₁
TEL 391-3793

— オリジナル **L** サイズ —
— 草履新発売 —

創業明治二十八年

履物の山下

古い老舗に新しいセンス

確実正札 完全冷暖房
静かに品選びの出来る店
神戸三宮センター街 TEL(391)0256



ハイセンスの紳士服で最高のおしゃれを!

三恵洋服店

元町4丁目 TEL(341)7290

SPRING KOBE SHOPPING



べっ甲美術品とアクセサリーの専門店

太田鼈甲店

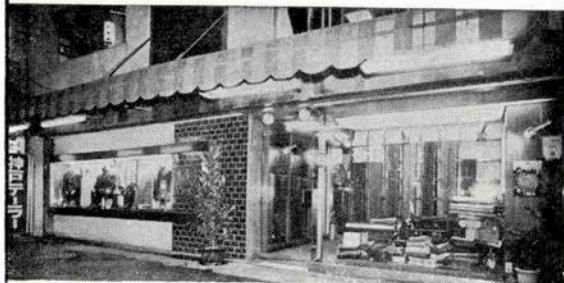
元町1丁目 TEL(331)6195



Mr. Kent
came to Kobe
流行に左右されない
本来のオシャレ
それがKentです
シックな
スコッチ風の店舗
それがFunakiyaです

Kent shop
フナキヤ
元町3 TEL(321)0356

高級紳士服専門店
神戸テラー



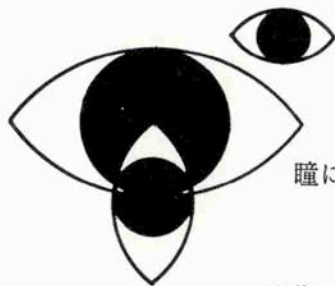
さんちかメンズタウン TEL(391)0388
生田区北長狭通2(阪急西口) TEL(331)2817・3173

額縁絵画・洋画材料
室内工芸品



末 積 製 額 三宮・大丸北
トア・ロード
331-1309・6234

SPRING KOBE SHOPPING



瞳に美しさを保つ
スポーツに
美容に
現代の科学が生んだ
コンタクトレンズ

日本コンタクトレンズ協会会員
国際コンタクトレンズ研究所

神戸市葺合区御幸通八丁目九ノ一 (三宮駅前)
神戸国際会館内 TEL(251)8161・(231)2570

やっぱりうまい
むさしのとんかつ

コベ三宮
ムサシ

でんわ・
321 321 331
— 〇〇六三三
— 〇六三三
— 五

□連載小説

異人館物語 〈7〉

ジェームス山哀歌

小山 牧子

え・石 阪 春 生



——黒松、樺、楊梅、根笹、^{ひまわり}竜胆、萩、^{ゆかり}柚香菊
 ……^{とんひ}鷹、^{みぞごい}小綏鷄、^{こじめけい}雉、^{わんじう}雉鳩、^{ひまり}鴨……。

年ごとに、人間と親しい草や木が数を増し、その緑を喜こんで鳥たちも集まってくる。寒冷の地カナダを故郷にもつジェームスは、塩屋の海近い高台にめぐる温雅な四季を、夢心地で過ごしたことであらう。そして、彼が拓いた王国は、日々、高級住宅地としての体裁をととのえてゆく。すべてよし。つきはすべて成功者ジェームス

あらずし 年のころ五十歳を少しすぎたと思われる初老の女が塩屋の高台をゆっくり降りていく。彼女、中井ふさは二十歳そこそこで郷里の潮岬村を出、英国系カナダ人E・W・ジェームスの雇人となり、五年前ジェームスが逝くまで彼の寵愛を受ける。彼にあって名づけられたジェームス山の中腹から塩屋の海を眺めながら、彼女はジェームスとの過ぎし日の出来事に思いをはせていく。

明治時代といえは多くの異国人が神戸に移り住み、西欧文明を背にして活躍した頃だが、E・W・ジェームスも数少ない相場師の一人で、兵器売込みでもうけた金で塩屋の不動産に目をつけはじめていた。そして塩屋のジェームス山はしだいに大規模で自然と調和した外国人居住区にできあがっていった。そしてジェームスの雇人の中に、ジェームスからひとときわかいがられた中井ふさの姿があった。

のがわにあった。

が、ここに一つ大きな誤算があることに、ジェームスはいつの頃に気付いただろう。時代の先を読み、まるで詰将棋の名人よろしく、時代の先手、先手をとってしこたま儲けたジェームスであったが、日本という国の将来について、大きく読みあやまったのである。日清、日露の戦争のころはまだよかった。西欧の親日家たちは、小羊日本が、巨象にひとしい支那、ロシアを打ちまかした

ことに、やんやの喝米を拍した。勿論、ジェームス一家もそうだったろう。

しかし、勢いついた日本が、西欧諸国の植民地と化し、衰退している支那を手中におさめようと、本格的な侵略をはじめた昭和六年の満州事変、十二年の支那事変勃発を前にしては相変らず対岸の火事を見るように喝米ばかりもしていられなかった。

ジェームスは、日本での自分の財産を着々とふやしながら、一方で当時の国際状況を見すえていたに違いない。日本の支那進出は、当然、支那に利権を張る英米勢力と衝突する。が、その予測をたてながら、ジェームス自身を支配していたのは、樂觀的予測の方であった。早晩、日本と英米の仲は險悪になるだろう。だが、一体、どこの国が、かの大英帝国に牙をむけ得るというのか。日本とて同じこと。英米の武力にほんの少しおどかされてみる、日本は、たちまち尻尾を巻いて支那から手を引くに違いないのだ。

ジェームスの目に、日本はしよせん大それたことなどできない温和な羊に見えた。で、彼は、なおもせっせとその羊に餌を与えて肥え太らせるように自分の財産を日本の国土に注ぎ込んでいたのだ。

ところが、昭和四年にこの地を拓きはじめてから十年、土建業者のさまざまな交渉、みずからブルドーザーの先に立って山をけずり、谷をうずめるほどの気がまえて暮らした十年、そしてできあがったジェームス王国を大満悦でパトロールしている間に、日本は軍国主義国家になり、支那のふところ深くで数々の紛争を引き起しているではないか。

温和な羊は、ジェームスの財産をたらふく喰いつくした上で、いつの間にか手のつけられぬ獐猛な虎に変身して、彼自身に襲いかかってきたのだ。

ついに、昭和十六年十二月八日、日本は真珠湾奇襲作戦によって、対英米戦争の火ぶたを切った。

何たる誤算!!

前の章で、筆者は、ジェームスをして日本に住んだ初めての近代企業家と位置づけた。そのジェームスも、大きく時代を、いや日本を読み違える時がきた。そして、この読み違いは決定的なものである。小さな歩の勇猛果敢な動きを読み違え駒を投げた負け棋士。運命は大きく狂いだした。

一夜あければ、ジェームスは敵国人である。彼が手塩にかけて豊饒ならしめたジェームス王国は、日本政府に没収され、彼は妻と共に国外追放の身となった。

何ひとつ国外に持出しをゆるされたものはない。裸同然で追い出され、しかもすでに老いの年齢にさしかかったジェームスのあせりはいかばかりだったろう。

去りがて、黒松の緑が衰えをみせぬ冬の山を、その緑の繁みから赤や青の屋根をのぞかせて点在する異人館を歯ざしりするおもいで凝視したジェームスは、押し殺したうめきのように低い強い声でつぶやいたのだった。

「おお、私の土地、私の家。一体、なん人がこの土地にあるすべてのものに、私ほど強く執着しえようか。この土地には、私の汗と血が注がれている。この土地に住む鳥と獣は、私の肉の分身であり、花々は、私の夢の飛沫だ。そして、この土地で永遠の眠りを眠るという、究極の願望を、私は決して捨てはしない」

裸一貫で追放されるジェームスであったが、その目は決して敗残者のようにうつろなものでなかった。むしろ、呪詛と見まがう暗い炎で明日への希望を燃えたとせていた。

そして、燃える目は、なおも忠実な犬のように彼自身を寄せている中井ふさにむけられたのである。

「よろしいか、フサさん。私はユウの勤勉さに常々感謝していましたです……」

ふさの黒い目は、一瞬、強い輝きを帯びて愛する雇主の言葉を受け止めた。

「あなた、それ信じてくれますね？」

またもあの射すくめるようにふさに迫ってくるジェー

ムスの存在のすべてがそこある。

「オブコース、オブコース、サア（勿論、信じますとも旦那さま）……」

ひたむきに答えるふさに、

「では、私の一生のお願いを聞いて下さい、ダーリン……」

ふてぶてしい勝負師であったジェームスの胸にも、このときばかりは悲愴感がみなぎっていた。で、その余裕のなさが、ジェームスに保守的イギリス人の節度を失わせ、異民族の召使い女に、はじめてダーリンと、親しき深い言葉で呼びかけさせたのである。

生まれてはじめて、愛する雇主にダーリンと呼ばれたふさの感激は大きかった。

「ダーリン、よく聞いて下さい。この山にあるすべては私の血であり肉であることと同じです。だから、私がこの山を留守にしている間に、私の血と肉が粗野な日本人に奪われること決して好みません。ユウ、私の痛い痛い気持ちわかりますか？」

「イエス、理解できます、旦那さま」

「ではフサさん……」

ジェームスは、まるで恋をささやく若い男のような熱っぽさで、中井ふさのふっくらと肉のついた手をとったのである。

「頼れるのは、フサさん。ユウだけです」

「勿体ないことを、旦那さま……」

ジェームスを見返したふさの目から涙があふれ、ふさはけなげに、ジェームスが期待した通りの答えを返していた。

「御安心下さい、旦那さま。あなた様がお留守の間、この山にあるあなた様の財産は、日本人の自由にはさせません。守ります。命かけて守りますとも……」

「サンキュー、フサさん。サンキュー、ユウ、ナイス・ガール、ユウ、ラブリー……」

昭和十六年十二月も暮れに近くジェームス邸の窓から

見える瀬戸の海は、寒々とした灰色に縮み、厚い冬雲に閉ざされた空の下、船の往き来が途絶えた港には、戦艦が黒い、毒を持つ昆虫のように、びったりと光を失った海面に張りついている。

暗い海の風景は、恐ろしい時代がやってくるその先ぶれのように、窓辺に立つふさの胸に倒れ込んできた。

南国の女に特有の血の熱い楽天氣質を本性に持つふさであったが、ジェームスとの別離のあとにやってきた残酷な日々は予想以上のものだった。

自分が拓いた土地、自分が建てた家々に心を残して、ジェームスがカナダに帰ったあと、ジェームス山の財産は、すべて日本政府に没収され、豪壮な邸宅は、日本の海軍将校の療養所になった。あちこちの港から数々の傷病兵が運び込まれ、見る間に、この美しい富豪の館は水兵たちの軍靴によって踏み荒されてゆく。

ジェームスとの別れに際して、
「生命かけて、あなた様の財産を守ります」と、

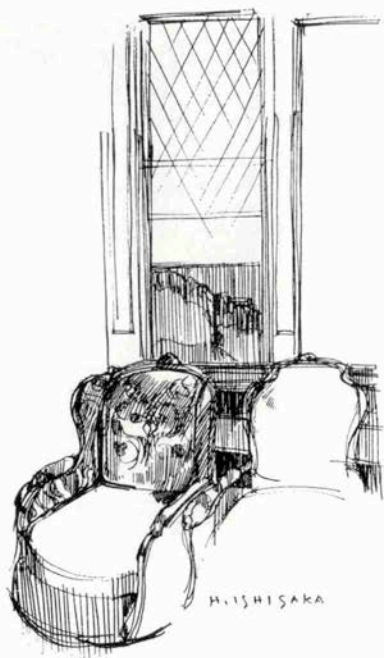
と、気強く言い切った中井ふさである。

この事態を黙視して、ジェームス山を立去るわけにもゆかないし、一億人の日本人と心を合わせて鬼畜米英と闘うわけにもいかない。その時から、ふさの日本人との闘いの日々がはじまった。

軍靴と男の汗の臭いがむんむんとたちこめるジェームス邸の内と外を四、六時中うろつき、邸内の家具調度類は勿論、山の樹木をまで監視しようとした。しかし、あの時代、一人の弱い女にすぎぬふさがジェームスへの忠誠心を発揮する場などあるはずがない。

「あきまへん。そない堅いベッド引きずりはしたら、ほら見なはれ。傷がついてしまった。この床、あのお方の言いつけで、私等が何年も丹精こめて磨きましたんや」
ふさが並びたてる苦情を黙って聞き流すおとなしい将校がいる間はいい。

戦争が熾烈化し、同胞の痛手が深まると、兵たちの心もすさむ。と、それに対抗するふさの使命感もまたヒス



テリックに高揚する。

「あ、なにするんや。ジェームスさんのシーツ引き裂いて、どうしよういんや」

「包帯だ」

「あかん、絶対あかん!! それジェームスさんのもんや。

天皇陛下さんは、人さまのものに手をつけてもええ言わはりましたんか?」

物資不足が深刻になっていた時代、青黒く痩せ、目ばかりがトゲトゲしく光る将校にむしゃぶりつこうとするふさを突きとばし、

「なにイ、女!! 貴様、それでも日本人か。敵国民の持物を守ろうとして、われわれに横突く女がいると聞いたが、噂に聞く山猫とは、貴様のことか」

ジェームス山に住む山猫と呼ばれ、気狂い女と呼ばれて山をうろついていた間はいい。

気違いでなく『非国民』の烙印が押されたならば、それまでの立場上、すぐに非国民は『スパイ』につながる時代だった。そして、『スパイ』のレッテルが張られたら最後、その日からの生活は保障されない。配給はストップ、警察権力は、戦争に一億総参加している民衆が投げる礫から『ラシャメン女』を守る義務はないというそぶくだろう。

中井ふさに、暗い絶望の日がやってきた。亀が甲羅の下にかくれるように、黙り込み、人目を避けて暮らす日々。もはや、愛するジェームスへの誓いが守れる時代ではない。が、時代がどうあろうとも、ジェームスを裏切ったと思った日から、ふさは深い挫折感を持った。その上にのしかかる飢えと同胞の敵意にかこまれている孤独。黙りこんだその日から、ふさの心は次第にすさんでいった。そして、ついに、ジェームスとの過去を疑装するためであった、終戦も間近になったころ、同じ屋敷ものの仲間の老いた男と肌を暖めあい、共に暮らすようになった。

一方、ジェームスは太平洋をへだてたカナダにあって戦争のなりゆきを見つめていたが、決って絶望してはいなかった。勿論、戦況も連合軍にとって有利に傾きだしている。やがて、日本の本土に空襲開始。となると、行動派のジェームス、手をこまねいて観戦だけというわけにゆかぬ。

早速、連合軍の参謀本部に日参して、「日本の本土はどこを空襲してもかまわないが、私が不動産を残してきた塩屋海岸だけは、爆撃からはずしてほしい」

と、懇願したというのである。

塩屋の土地には、いまは伝説的な語り草として、塩屋海岸が敵機飛来の銀座通りとなりながら、爆弾ひとつ落ちなかったのには、この時のジェームスの陳情が大きく物を言ったという話が残っている。が、この最後のオチは信憑性にとぼしい。というのは、ジェームスならば参謀本部に乗り込んで圧力をかけるぐらいのことはするだろうが、軍部が、一企業家の懇願を真面目にとりあげるものかどうか……。

△つづく▽

曲線ハイウェイ

武田 繁 太郎
え・横 塚 繁



宇津康子が、あす上京するという電話をかけてきたのは、多木が神戸から帰京して、一週間ほどたった日の朝だった。

あらずじ ★東名高速 浜名湖サービスエリアで 多木洋介は若い

神戸の女性宇津康子と知合い、幾度か逢瀬を重ねた。康子の魅力にひかれた多木は、正体を知るため、神戸出身の友人岡本和彦と共に東名神を通り、神戸へ来た。康子を見出せぬ多木は、彼女の面影に似た辰馬英子を紹介され、六甲山をドライブに出かけた。ロマンティックな情景に誘われて英子を抱きしめた多木の胸に、始めて感じるおとしさがつづつた。その夜須磨のホテルで二人は愛をたしかめあった。そしてさりげなく二人は別れた。

そしてある日突如として現われた康子からの電話で、レストランで会った多木は、その足でTホテルに向い二人の愛を確め合った。その翌朝、康子は神戸からの電話で再び風のように去っていった。その置き去られた淋しさと孤独に多木は康子を慕い再びKOBにきていたが、康子を追い神戸にきた筈の多木は、友人岡本の早呑みみ込と、神戸の雰囲気なかで辰馬英子を探している自分に気付いた。そして、数軒の店をめぐり歩いた後、英子をつつけた。

そこでの約束どおり、二人は淡路島へのドライブに出た。西海岸をめぐって後、二人は州本の海岸近くのホテルに憩った。神戸に戻ったのはもう夜だった。エキゾチックなムードを楽しみ食事を終え、薄暗い街で多木は中年の男と寄りそって歩いている宇津康子を目撃した。その衝撃を負って帰京した多木の元に、宇津康子からの屈託のない電話が入った。

「このまえは、あわてて帰ってしまつて、ごめんなさい。こんどは、すこしはゆっくりできそうだから、約束のドライブがたのしめるわ。どこか、遠くへいかなん？」

電話の康子の声は、屈託がなかった。

「そうだな。プランをたてておこう」

多木も、以前とかわらぬ口調で、康子の電話に応答し

た。

だが、内心、彼の気持ちは微妙に屈折していた。

神戸のあの夜の街で、多木は、この目でみてしまったのである。

偶然であった。彼は、康子を追って神戸にきながら、康子の居所をつきとめることなど、もうあきらめていた。このまま、あすは東京へ帰ろうと考えていた。その矢先きであった。偶然が、いきなり、彼の頬に平手打ちをあげてきたように感じられた。

思いがけなかった。とっさには、多木は自分の目が信じられなかった。

だが、もうまちがいはなかった。背の高い中年の外人の男と寄りそって歩いている日本の若い女は、まぎれもなく宇津康子であった。通りの店のあかるい灯が、彼女の姿をはっきりと浮かびあがらせていた。

二人は、ゆったりとした歩調で歩んでいた。なにか話しあっているのか、ときどき、男のほうで背をまるめるようにして、女に頬をよせていく。むつまじそうであった。

「さすがに港街だな。ああいうカップルが街を歩いている、ちっとも違和感のようなものを与えない」

多木は、感情を殺した声でいった。なにか言葉を口にしなければ、動転している胸のうちを、英子に感づかれそうな不安があった。

「ああ、まえを歩いている、あの二人ね」英子は、路傍の人をながめる眼差しでいった。

「あの二人、なにかしら？ 夫婦みたいだし、そうでもないみたいだし。でも、この街には、たしかに、ああいうカップルが、むかしから多いわね」

英子は、あまり興味のなさそうな口調でいって、かえって、多木を安堵させた。

そのまま、前方の二人と多木たちは、一定の間隔をたもって歩んでいったが、やがて、生田神社のわきにある一軒のクラブのまえまできたとき、前方の二人は、その

クラブのなかにはいっていった。

「あの二人、夫婦じゃなかったみたいね」

英子が、二人の後ろ姿を見送りながら言った。夫婦なら、こんなカネのかかるクラブなどには遊びにこないだろう、という女らしい計算からだったのだらう。

だが、そんなせんさくは、このときの多木には、どうでもいいことだった。

夫婦であらうと、なかりうといずれにせよ、宇津康子は、一人の外人の男と連れそって歩いていたのである。二人がどんな仲であるかは、後ろ姿からだけでも、はっきりと想像がついた。

むろん、康子が神戸で独り暮らしをしているとは、多木も考えてはいなかった。未婚か既婚かはまだ不分明だが、彼女がまったく男関係なしにすごしているようはずはない。

康子には、良人がいるのかも知れない。恋人がいるかも知れない。あるいは、情人がいるかも知れない。もしかしら、その情人は妻子がいるのかも知れない。

多木は、彼女のそういう男関係を責める気持ちは毛頭なかった。もともと、責める権利など、彼にはありえなかった。いままで、彼は彼なりに割りきって、康子とつきあっていた。

だが、康子の相手が外人だったということに、多木の気持ちは大きくゆらいでいた。それにかんりの年配の外人である。どこの国の男か、多木の目などにはわからなかったが、後ろ姿から想像して、もう四十の坂を越していたらう。

意外であった。思いがけなかった。誇張ではなく、晴天の霹靂のような衝撃が、多木を襲っていた。

彼は、いままで、康子の相手の国籍など、考えてみたこともなかった。それが当然のように、相手の男は日本人だと思っていたのである。

多木は、康子に男がいても、それほどこだわらない気持ちでいられたのも、相手が自分とおなじ日本の男だと

いう、無意識の前提があったからであろう。そのことに、いま、彼ははじめて気づいていた。

だが、相手は、こともあろうに、外人であった。背の高い脚の長い、毛むくじやらの、おそらくは腋臭の匂いをむんむんさせている、肌の白い異人種の男であった。多木は、どうしても虚心ではいられなかった。

これまで、康子が、自分の身元や居所をあかさうとしなかった秘密のひとつが、多木にもようやく解けてきたように思えた。

康子が電話をかけてきた翌日の夕刻、多木は、康子のクルマをかって羽田まで出迎えにいった。

彼は、神戸で彼女をみかけたことは、黙っているつもりであった。彼女のほうは、むしろ、彼が神戸にあらわれたことには気づいていない。多木は、できるだけな

ごともなかったようにふるまおうと思っていた。そうして彼女の様子をみてるのだ。なにかもつと、彼女の隠された部分がわかるかも知れなかった。

「ごめんなさい。ながいことクルマのお守りをさせてしまつて」

小さなスーツケースひとつをさげた軽装で、康子は、多木のまえに姿をみせた。その翳りのない笑顔に、多木も、歓迎の微笑をかえしていた。

駐車場からクルマをだし、康子を助手席に乗せて、高速道路のほうにむかひながら、

「宿はやっぱり、Tホテル？」
と多木は行先きをたずねた。

「ええ。とりあえず、今夜ひと晩、Tホテルに予約しておいたの。あなたと二人分」

「そうか。じゃ、まっすぐ赤坂へいこう」
うなづくと、多木は、アクセルをふみこんだ。クルマ

は高速道路にはいつていた。いつ気にもスピードをあげながら、多木は、あの中年の外人男の後ろ姿を脳裏に思い浮べていた。ふと、ならんで助手席にいる康子の身辺から、まだほのかに、外人特有の腋臭くさい体臭がにおってくるように思えてきた。

「多木さん。ドライブのプラン、もうきめてくださつた？」

康子が、煙草に火をつけ、多木の口にくわえさせながらたずねた。煙草の香が、多木の不快な妄想を巧まずして追い払ってくれるようであった。

「きのう君から電話があったあとで、あちこち考えてみたんだが、こんどは、君、なん日ぐらい、いられるの？」

「そうね。すこしはゆっくりできそうだが」

「プランは、滞在日数でできるんだが、一週間ぐらいは大丈夫？」

「一週間？——いいわ」

「じゃ、もうすこし長く、十日ぐらいは？」



〈神戸の催し物 2 月ご案内〉

〈音楽〉

★ホセ・フェリシアノ

2月1日(木) P.M. 6:30~P.M. 8:30 神戸国際会館
民音 会員制 A¥1800 B¥1400

★よしだたくろうコンサート

2月10日(土) P.M. 6:30~P.M. 8:30 神戸国際会館
民音 会員制 ¥800

★クロード・チャリ

2月17日(土) P.M. 6:30~P.M. 9:00 神戸国際会館
神戸文連 入場料 A¥1800 B¥1500

★ビデッティ・ギター演奏会

2月28日(火) P.M. 7:00~P.M. 9:00 神戸国際会館
民音 会員制 ¥1200

〈演劇〉

★オンディーヌ

2月5日(月) P.M. 6:00 開演 神戸国際会館
入場料 A¥1800 B¥1400 C¥900

劇団四季公演 作/ジャン・ジ

ロドゥ 演出/浅利慶太

音楽/諸井誠、いずみ・たく

作詞/岩谷時子

出演/北大路欣也、三田和代、

松宮五郎、水島弘、田中明夫、

瀬下和久、藤野節子はか劇団四

季演技陣

★戦争と平和

「戦争と平和」の山本 圭

2月19、20、21日 毎夕 P.M. 6:15開演

神戸国際会館 神戸労演 会費 800円

俳優座公演 トルストイ原作、ビスカートル脚色 増見利清
演出

出演/武内亨、矢野宣、福田豊土、井川比佐志、原田清人、
橋本功、山本圭、山本亘、中村美代子他。

★ジャックと豆の木

2月24、25、26日 24日 ①A.M. 10:30 ②P.M. 2:00

25日 ①A.M. 10:00 ②P.M. 1:00 ③P.M. 3:30

26日 ①A.M. 10:30 ②P.M. 2:00開演 神戸国際会館

入場料 A¥700 B¥600 C¥500 日本演劇センター

〈舞踊〉

★リトル・エンジェルス

2月13、14、15、16日 ①P.M.1:00~P.M.3:00 ②P.M.

6:00~P.M.8:00 神戸国際会館

入場料 A¥3500 B¥3000 C¥2500



多木は、思いきってたずねてみた。
「十日ね。いいわ」
康子は、意外にあっさりとうなづいた。
多木は、内心、わからなくなった。いったい、この女とあの外人と、どんな関係にあるのか。この女を一週間も十日も自由にさせておくあの外人は、なにものなのか。多木は、見当がつかかぬた。
だが、康子が一週間で十日でも、彼につきあうというのなら、彼のほうも拒むいわれはなかった。
「そうか。それぐらい余裕があるんなら、どお？ 北海道へいってみない？」
「北海道？」
さすがに、康子も驚いたようにききかえした。
「うむ。一週間以上の余裕があれば、ゆっくりクルマでいってこられる。じつはね、北海道の日本海岸に、すてきな秘境があるっていうんだ。いちどいってみたいと思っていたんだが、ちょうどいい機会だ。二人でいってみたいか」
「北海道の秘境——なんとなくロマンチックな感じね」
「君は北海道へいったことあるの？」
「まだないのよ。だから、余計魅力をもそられるみたい。いってましょか」
康子も、北海道行きの決心がついたようであった。
「あなたの言うその秘境って、知床の辺なの」
「いや。知床はオホーツク海側だけど、ほとんどのいは、反対側の日本海にめんしているんだ。知床は歌で有名になったけど、有名になったら、もう秘境じゃない。こっちは、ほとんどまだだれにも知られていない、知床以上にすばらしい秘境だって言うんだ」
「北海道には、まだそんな場所があるのね」
「うむ。北海道でも、もうさいごに残された秘境というんだ」
多木は意気こんでしゃべっていた。
「北海道までフェリーがでている。きのう調べたら、ちょうど、あすの午後六時に東京を出航するというんだ。北海道の苫小牧まで、三十時間でいくそうさ。この船旅も、けっこうたのしいものらしい」
「いいじゃない。そんな長距離のフェリーに乗るのも、あたし、はじめてだわ」
康子も、ようやく目を輝かしていった。